1Qp－3　　性役割意識と服装行動との関連について（第８報）

--服装行動測定尺度の妥当性・信頼性の検討と服装行動の測定--

華頂短大（非）　○西藤栄子　　奈良女大生活環境　中川早苗

【目的】性役割意識と男らしさ、女らしさの表現手段としての服装行動とは大きく関連すると考えられる。これまでの一連の研究から、服装行動との関連を検討するための性役割意識測定尺度を作成し、その有効性について確かめた。服装行動を測定するための尺度については、前報までに「男らしい（女らしい）服装」についての用語をイメージのレベルで収集し、その意味構造を検討し、尺度項目の選定を試みた。本報では前報で作成した測定尺度についての妥当性と信頼性について検討し、その尺度を用いて服装行動の測定を行い、知見が得れらたので報告する。

【方法】前報で選定した服装行動測定尺度項目（30項目）に対して、男女の学生および社会人、計671名を被験者として、「一般に、男らしい服装（女らしい服装）には、次のような項目はどの程度重要か」ＳＤ法、７段階で評定を求めた。得られた評定値をもとに30項目を変数とし、因子分析にかけた。またCronbachのα係数の算出を行い、尺度の内的整合性を検討した。また測定尺度の下位次元ごとに評定平均値を算出し、前報の結果との比較、そしてさらにその尺度を用いて被験者の服装行動の測定を行った。

【結果】「男らしい（女らしい）服装」についての測定結果をまとめて因子分析にかけた結果、前報同様５因子を抽出した。Cronbachのα係数は、前報に近似した0.7以上の高い値を得ることができた。尺度の下位次元ごとの測定結果を前報と比較した結果、被験者の違いおよび一定時間の経過に関係なく整合性のあることを確かめた。服装行動の測定結果では、下位次元ごとに「男らしい（女らしい）服装」に対する期待に差異が認められた。